

- ◆ **5月上旬植のコシヒカリの出穂は、鹿沼市では7月22日頃、日光市では7月28日頃となる見込みです！**
- ◆ **出穂期・開花期は最も水を必要とする時期です。不足しないよう、こまめな間断かん水を行いましょ！**
- ◆ **斑点米発生防止のために、出穂前の草刈りと出穂後の薬剤散布を徹底しましょ！**

○気象の推移

【鹿沼市】

「移植期～最高分けつ期」

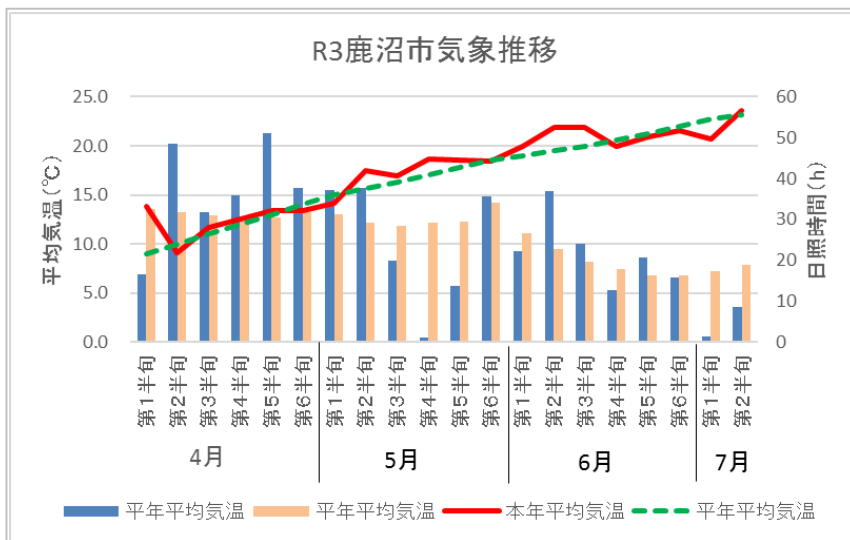
**少雨寡少**

平均気温：平年比106%  
降水量：平年比82%  
日照時間：平年比91%

「最高分けつ期以降」

**多雨寡少**

平均気温：平年比97%  
降水量：平年比159%  
日照時間：平年比68%



【日光市】

「移植期～最高分けつ期」

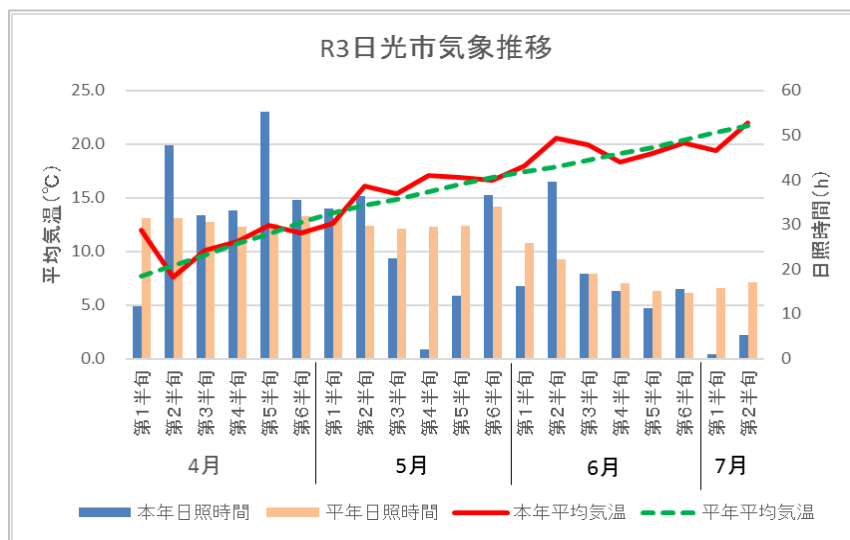
**少雨寡少**

平均気温：平年比105%  
降水量：平年比84%  
日照時間：平年比88%

「最高分けつ期以降」

**多雨寡少**

平均気温：平年比97%  
降水量：平年比128%  
日照時間：平年比61%



○水稻出穂期予測(全量基肥)

(生育診断ほ調査結果7月14日)

鹿沼市久野の診断ほでは、幼穂長から判断すると、**7月22日頃に出穂する見込み**です。昨年出穂期は7月26日なので、**やや早い出穂が予想**されます。

日光市木和田島の診断ほでは、幼穂長から判断すると、**7月28日頃出穂する見込み**です。昨年出穂期は7月28日なので、**前年並の出穂が予想**されます。出穂期予測は今後の天候で左右されるので、ほ場の状況を確認しましょ。(裏面へ)

## ○今後の技術対策

### 【水管理】

- 連休植えのコシヒカリは今月中に出穂期を迎えます！  
出穂期・開花期は最も水を必要とする時期なので、**水が不足しないようにこまめな間断かん水を行きましょう！**
- 特に**幼穂形成期～出穂期までの冷害は危険です**。この時期に**低温（日平均気温が20℃を下回る日が長期間続く場合や、短期間でも17℃を下回る場合）**が予想される場合は、**深水管理（水深10～20cm）**に努めましょう。
- 中山間地等で用水温が低い地域は、昼間止水夜間かん水等により**水田の水温および地温の確保**に努めましょう。
- 出穂期～登熟期（特に登熟初中期）にかけての**異常高温は、稲体を衰弱させ、乳白等の白未熟粒や胴割粒の発生を助長します**。夜間かん水により**地温を低下させて、根の活力維持**に努めましょう。高温時の常時湛水管理は、高水温により根腐れが起きやすくなるので、**間断かん水を行きましょう！**

### 【いもち病対策】

- 稲の上位葉に葉いもちが多いと、穂いもちの発生も多くなります。ほ場の発生状況をよく観察し、**発生が見られた場合には、早急にブラシフロアブル等の予防・治療効果のある薬剤を散布**しましょう。



【写真】葉いもち

### 【斑点米カメムシ対策】

- 斑点米カメムシ類はこれから気温の上昇とともに水田への飛来や、その後の発生量が急増する見込みです。
- 出穂前の畦畔の草刈りは、斑点米カメムシ類の水田への飛び込みの抑制に有効です。
- 斑点米カメムシ類が水田内にみられる場合には、**乳熟初期（出穂期7～10日後）までにスタークル液剤10等の液剤を散布**しましょう。多発地域では1回目防除の後の追加防除が必要です。2、3回目はスタークル粒剤等の粒剤散布が有効です。

出穂2～3週間前に草刈りを行い、イネ科雑草を出穂させないようにしましょう！

＜薬剤散布適期＞

1回目：出穂期～出穂10日後まで  
2回目：1回目から7～10日後



草刈り①ができない場合、出穂期10日前までに除草！



写真 クモヘリカメムシ

7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

夏の農作業で、以下のことに気をつけましょう。

- ・日中の気温の高い時間帯の作業は控えましょう。
- ・こまめな休息、水分補給を行きましょう。
- ・体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょう。

